

■百済尼寺の存在を示す墨書土器■

細工谷（さいくだに）遺跡からは、「百済尼（くだらあま）」と墨で書かれた土器が出土しています。

建物の礎石（そせき）といった寺院そのものの痕跡は見つからないものの、女性の僧侶が暮らす「百済尼寺（くだらあまでら）」が存在したことがわかる、重要な資料です。

また、細工谷遺跡からは「僧寺（そうじ）」とかかれた墨書土器も出土しており、男性の僧侶が暮らす寺もあったことがわかります。

このうち僧寺は文献史料にみえる「百済寺（くだらでら）」であった可能性が高く、堂ヶ芝廃寺（どうがしばはいじ）がこの百済寺であったとされています。

難波には、百済寺と百済尼寺がセットで存在したことがわかります。